



情報誌

F A R

51 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

FAR 会の継続的發展を願って

会長 川上壽昭



今年の冬は、近年にない厳しい寒さが続き、ようやく草木の芽も膨らんで参りましたが、会員の皆様には益々ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

遠い昔のように感じますが、FAR 会の設立されたのが平成 13 年 4 月、そして情報誌の創刊号が発刊されたのが平成 13 年 9 月と、共に 16 年の時を刻むことができました。

これも偏に歴代会長のご尽力と会員お一人お一人のご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げます。併せて、春秋の懇親会をお世話頂きました世話人の方々、情報誌の発刊に携わって頂きました歴代編集委員長はじめ編集委員の方々、そして、情報

誌の発送作業にご協力頂いております学会事務局の方々に改めて厚くお礼を申し上げます。

私も、山田前会長の後を受けて 3 代目会長として選出され早や 2 年が経ちました。FAR 会誌 50 号記念誌による会員数の推移を見てみますと、FAR 会発足時からの延べ会員数は 165 名でありましたが、平成 29 年 11 月 20 日現在の会員数は 95 名と、大幅に減少してきています。これは、① 運営方法がマンネリ化して魅力が感じられなくなってきているのか。② 現役を離れられて時間も経ち学会参加も難しくなってきたのか。③ 高齢化に伴って退会者が増えてきているのか（死亡退会、自主退会）等々、その原因については種々考えられますが、FAR 会を今後継続的に発展させていくためには、原因の究明と併せて、意義、目的を一層明確にして会員より信頼され、親しまれ、愛される会を目指す事が大切だろうと考えています。会の運営は「数の力」なくしては成り立ちません。

これから FAR 会が更なる発展を遂げていくためには、意義、目的を一層明確にして会員より信頼され、親しまれ、愛される会を目指し、継続して行く事が重要と考えています。一方、会の円滑な運営には「数は力」の論理も働かす工夫も必要だろうと思っております。ところで、私も 3 年前に後期高齢者の仲間入りをしてから、体調を崩すことが多くなって積極的な学会参加も難しい状態となり、懐かしい先生方とお逢いする機会が少なくなってきております。また、先輩や同輩の先生方が黄泉の国に旅立ちされたとの知らせが届くようになり寂しい思いをしております。

巻頭言のご挨拶が年寄りの愚痴のようになってしまいましたが、高齢者とは何かと考えてみた時、一般的には高齢者は経験を積み、様々な事に熟達していると云われています。加齢に伴う認知機能及び運動機能の衰えや、記憶力の減退等といった理由により、第一線を退いた方もおいでになると思いますが、豊富な経験と、その経験

内 容

- | | | |
|--------------------------|------|------|
| 1. ごあいさつ | 会 長 | 川上壽昭 |
| 2. 2018 FAR 会懇親の夕べ報告 | 代表幹事 | 江島光弘 |
| 3. 2018 秋の FAR 会案内 | 代表幹事 | 梁川 功 |
| 4. 報告事項 | | |
| 5. 会からのお知らせ | | |
| 6. 29 年度事業報告 | | |
| 7. 2018 年度事業計画 | | |
| 8. JSRT 情報 | | |
| 9. 寄稿 私のふらり旅「春」 | 川越市 | 森 克彦 |
| 10. 続編「梅垣先生に集う会」の思い出（後編） | 長野市 | 平野浩志 |
| 11. 編集の小窓 | | |

によって導き出される勘は、学習によって得られる知識や、練習によって習得する技能を超えた効率発揮してくれるものと考えています。これらを若者は学ぶべき点は学び、また次世代に伝えるべきものと思っています。皆で作ってきた FAR 会です。継続し発展させて行きたいと思いますのでご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

追伸：平成 30 年 1 月 15 日に FAR 会創刊 50 号記念誌が発刊されました。編集・刊行に携わって頂きました、森編集委員長、石井、江島、橋本、山田編集委員、また、発送作業にご尽力頂きました山副会長、学会事務局職員の方々、そして、FAR 会への思いを込めた貴重な原稿を執筆頂きました会員の方々に心より厚くお礼を申し上げます。

~~~~~

## 《2018 FAR 会懇親の夕べ》報告

### 横浜赤レンガ倉庫と懇親の夕べ

代表幹事 江島光弘

今年は記録的な早さの桜の開花（開花宣言 3 月 17 日）で、「2018 FAR 会懇親の夕べ」は桜の花も終わり、若葉が芽吹き、新たな季節と生活の始まりを感じながらの開催となりました。

横浜赤レンガ倉庫はいつも外から眺めていますが、2 号倉庫はレストランやショップなどが揃った施設として甦ったことで、倉庫の歴史的な役割に思いを馳せ、当時の面影に間近に触れることができることから、横浜赤レンガ倉庫内「BEER NEXT ダイニングレストラン」を今回の会場に選ばせていただきました。

「懇親の夕べ」は少し遅れましたが全員がそろっての開始となりました。開会に際し川上 FAR 会会長のご挨拶と、ご来賓の JSRT 小倉代表理事、JRC2018 第 74 回総会学術大会 錦大会長、石田実行委員長にご挨拶をいただきました。

筒井名誉会員の乾杯のご発声で懇親が始まりました。筒井名誉会員からはとてもおいしいワインの差し入れもいただき本当にありがとうございました。ご用意した料理と酒は、お任せの開港プレートなど港横浜をイメージしたコースと 4 種類の生ビールを含む各種の飲み物でした。懇親会では、年に 2 回、あるいは 1 回しかお会いできない会員の方もおられ、皆さんの近況報告などの会話が、初めて参加された方も交えて楽しそうに弾んでいました。





中締めでは「2018 秋の FAR 会」の梁川代表幹事に「日本三景松島と震災復興視察の旅」2018 年 10 月 6 日（土）～7 日（日）開催（8 月 10 日〆切）のご案内を、「2019 FAR 会懇親の夕べ」2019 年 4 月 13 日（土）開催のご案内を橋本代表幹事よりそれぞれお願いいたしました。

閉会のご挨拶を平林副会長からいただき、楽しかった懇親会も 2 時間半があつという間に過ぎました。



末筆ですが、幹事の不行き届きをお詫びし、参加された皆様方のご協力に心より感謝申し上げます。  
次回「2018 秋の FAR 会」、「2019 FAR 会懇親の夕べ」でお会いできますことを楽しみにしております。  
（写真提供：山 副会長）

## 《2018 秋の FAR 会》案内

### 「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」

代表幹事 梁川 功

2018 年 10 月 4 日（木）～6 日（土）の日程で、千田浩一大会長、坂本 博実行委員長のもと第 46 回秋季学術大会が仙台市で開催されます。テーマは「震災から 7 年、復興と放射線技術学」です。2011 年 3 月 11 日に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生してから早 7 年が経ち、津波による大きな被害は徐々に復興してきましたが、まだまだ多くの問題を抱えているのが現状です。

そこで恒例の秋の FAR 会の旅は、「日本三景松島と震災復興視察の旅」と題して、観光と震災復興状況の視察を兼ねた企画としました。松島の絶景を遊覧船で楽しみ、オーシャンビューの宿の眺望風呂で汗を流し、海の幸に舌鼓を打ち、ゆったりと楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。是非、多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げます。

#### 旅行日程

1. 平成 30 年 10 月 6 日（土）～1 泊 2 日
2. 会 費 30,000 円

ご家族の参加も歓迎

## ☆ 旅行の詳細 ☆

### 震災復興の視察

仙台空港付近の閑上（ゆりあげ）地区、震災遺構として公開され津波の脅威や教訓を後世に伝える荒浜小学校。児童や教職員、地域住民ら 320 人が避難しました。被災した校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示等により、津波の威力や脅威を実感し、防災・減災の意識を高める場とすることを目的に公開されました。



### 松島島めぐり遊覧船

松尾芭蕉が「奥の細道」旅の冒頭で描いた松島。芭蕉が夢見た美しい絶景がここ「松島湾」には広がっています。



### 国宝瑞巖寺、五大堂

慈覚大師円仁によって開創された奥州随一の禅寺「瑞巖寺」。正式名称を「松島青龍山瑞巖円福禅寺」とし、現在は臨済宗妙心寺派に属しています。現存する建物は、仙台 62 万石の祖、伊達政宗が 4 年の歳月をかけて建立した歴史的建造物で、豪壮かつ華麗な伊達文化を今に伝えています。



### 石巻、女川復興視察

石巻市の被災の大きかった地域旧市街地を巡り、女川町ではシーパルピア女川を訪ね、人が気軽に訪れ、集い、海を見ながら語り合う場、にぎわえる町、駅前広場、レンガみちなど復興のシンボルを視察していただきたいと思います。



### 旅程表

10/6（土）震災遺構視察、松島遊覧、瑞巖寺

仙台国際センター12:30 出発→閑上日和山 13:00～13:20→荒浜小学校 13:40～14:10→塩釜港 15:00→松島遊覧→松島港 15:50→瑞巖寺・五大堂 16:00～16:50→ホテル 17:00 着

《松島の宿》 松島センチュリーホテル 宮城県宮城郡松島町松島字仙随 8 TEL 022 354-4111

10/7（日）石巻、女川復興視察

ホテル 8:30→石巻 9:15～10:30→女川 11:00～12:30→仙台駅 14:30 解散

~~~~~

《報告事項》

《会員動向》

会員数（2018年4月18日現在）：94名（内、名誉会員：8名）

- ・新入会員：1名 井手口忠光（福岡県粕谷郡、2017/11/8 付け）
- ・死亡退会者：1名 小倉佐助（京都府長岡京市、2018/1/24 逝去）
- ・会費未納による退会者：2名

《新入会員紹介》

井手口忠光（福岡県粕谷郡、2017年11月8日入会）



【近況】現在、九州支部の支部長を拝命して3年目になります。任期はあと1年です。福岡市にある純真学園大学(私立)に勤務しており、入試部長と教育ICT委員長を兼任しております。学会との両立がなかなかできない状況。九州支部の理事の皆様にご助けて頂きながら頑張っています。

【趣味】旅行、食べ歩き、ビール、日本酒、ウォーキングです。趣味とは言えませんが、カメラも興味が 있습니다。将来、やってみたいのがパラグライダーです。

（「写真」ならびに、「近況」「趣味」の記述内容は入会申込書に記載されたものです。）《第50号より再掲》

《会からのお知らせ》

2018年度第1回世話人会議報告

2018年4月14日、パシフィコ横浜国際会議センター会議室(横浜市)において、川上壽昭会長を含め19名が出席し、以下の議題について討議・審議した。

1. 会務報告

1) 会員動向

会員数（2018年3月末現在）：94名（内、名誉会員：8名）

2017年度中の

- ・新入会員：1名 井手口忠光（福岡県粕谷郡、2017/11/8 付け）
- ・死亡退会者：1名 小倉佐助（京都府長岡京市、2018/1/24 逝去）
- ・会費未納による退会者：2名

2) 第2回運営委員会・第1回総務委員会との合同委員会報告

- ・日時：2018年1月13日（土）
- ・場所：JSRT 事務局
- ・出席者：平林副会長を含む8名参加
- ・主な議題：1. 会務報告、2. 次年度事業計画・次年度予算案、3. 名誉会員推戴の件、4. 年度表記の件、5. 規約の一部改正の件、6. 各委員報告等を検討・報告した。

3) 名誉会員推戴の件

村上長善氏(大阪府吹田市)は2018年1月1日で米寿(数え年88歳)を迎えられたので、規約第4条の定めに則り名誉会員に推戴した。

4) 事務局報告

資料を基に、業務報告並びに月別収支計算書報告をした。

2. 規約第4条「名誉会員」の一部改定の提案

現行の第4条「名誉会員」の規定は『正会員であって、米寿(数え歳88歳)を過ぎた者で、終身』と規定しているが、現行条文に5年以上在籍での文言を加える事を提案し、提案通り承認し、即日施行する事とした。尚、付則に規約の一部改訂(第4条4「名誉会員」) 2018年4月14日世話人会議

承認、即日施行を加える事とした。

3. 本会の「年」及び「年度」表記について

平成 31 年(2019 年)5 月 1 日より元号(和暦)が改元される事をふまえ、本年度(2018 年度)より「年」並びに「年度」の表記を西暦表記に統一する事を提案し、提案通り承認した。

4. 世話人交代の件

萩原康司世話人(北海道札幌市在住)より世話人辞任の申し出があり、申し出の通り世話人辞任を承認し、本年度より新たに柴田崇行氏(北海道札幌市在住)を世話人に選任した。

5. 平成 29 年度事業報告・収支決算書報告・会計監査報告

(A)【平成 29 年度事業報告】

1) 会員動向

会員数(2018 年 3 月末現在): 94 名(内、名誉会員: 8 名)

- ・新入会員: 1 名 井手口忠光(福岡県粕谷郡、2017/11/8 付け)
- ・死亡退会者: 1 名 小倉佐助(京都府長岡京市、2018/1/24 逝去)
- ・会費未納による退会者: 2 名
- ・名誉会員推戴: 1 名(村上長善(大阪府吹田市、2018 年 1 月 1 日付け))

2) 事務局報告

- ・業務日報・収支計算書報告

3) 情報誌発送作業並びに、HP 更新作業について

事務局の全面的協力の下、第 48 号、第 49 号、第 50 号記念誌号の製本・発送作業を夫々行った。
また、HP の更新箇所を事務局に指示し、各々最新情報に更新した。

4) 会議関係

- (1) 第 1 回世話人会議を 2017 年 4 月 15 日、パシフィコ横浜会議センターにおいて、川上会長を含む 23 名の出席の下、開催した。
- (2) 第 2 回世話人会議を 2017 年 10 月 21 日、広島国際会議場において、川上会長を含む 19 名出席の下、開催した。
- (3) 第 2 回運営委員会・第 1 回総務委員会との合同委員会を 2018 年 1 月 13 日、JSRT 事務において、平林副会長を含め 9 名の出席の下、開催した。

5) 情報誌関係

- (1) 第 48 号を頁数 16 頁で、2017 年 5 月 15 日に発行した。
- (2) 第 49 号を頁数 8 頁で、2017 年 9 月 15 日に発行した。
- (3) 第 50 号を頁数 72 頁で、「情報誌創刊 50 号記念誌号」として 2018 年 1 月 15 日に発行した。

6) 懇親活動

- (1) 「2017 FAR 会懇親の夕べ」を下記の内容で行った。

- ・日時: 2017 年 4 月 15 日、18:30~
- ・会場: 馬車道十番館(横浜市中区常盤町 5-67)
- ・代表幹事: 平野浩志
- ・参加費: 9,000 円(会員)、10,000 円(非会員)
- ・参加者数: 30 名(会員: 22 名、会員家族: 1 名、JSRT 職員: 4 名、非会員: 3 名)

- (2) 「2017 広島・宮島への旅」を下記の内容で行った。

- ・2017 年 10 月 21 日、22 日(1 泊 2 日)
- ・懇親会会場(宿泊地): ホテルみや離宮
- ・行程: 厳島神社正式参拝、宮島散策、広島原爆資料館見学等(台風接近による悪天候のため観光の一部を中止し、昼食後解散とした。)
- ・代表幹事: 神澤良明
- ・参加費: 30,000 円
- ・参加者数: 17 名(宿泊数者: 16 名)

(B)【収支決算書報告】

FAR 会 平成 29 年度収支決算書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

収 入 の 部

科 目	予 算	決 算 額	備 考
前年度繰越	634,262	634,262	
年 度 会 費	176,000	174,000	87 名
新 入 会 分	10,000	0	
寄 付 金	30,000	139,000	第 73 回総会学術大会実行委員会、公益社団法人日本放射線技術学会 小倉代表理事、前田幸一氏、川上壽昭氏、速水昭雄氏、山 哲男氏、平林久枝氏、本間龍夫氏
広 告 料	0	0	
懇 親 会 費	1,020,000	758,000	懇親の夕べ（参加者：（準）会員；27 名、非会員：3 名） 懇親旅行参加費（16 名（480,000 円+1 名（5,000 円））
雑収入(利等)	10,000	5,164	利息（4/1）、利息（10/1）、懇親旅行昼食費返金分（2 名；3160 円）、村上長善（名誉会員）30 年度会費
小 計	1,246,000	1,076,164	
預かり金収入	200,000	160,000	
(次年度以降)		224,000	
合 計	2,080,262	2,094,426	

支 出 の 部

科 目	予 算	決 算 額	備 考
情報誌作成費	40,000	30,000	48 号、49 号、50 号
懇 親 会 経 費	1,140,000	771,103	懇親の夕べ（参加者：30 名）、「広島・宮島への旅」の旅行代金（（16+1）名）
会 議 費	50,000	28,520	第 1 回世話人会弁当代（23 名分）
運 営 旅 費	110,000	65,770	運営・総務合同委員会（1/13；森、神澤、平林、草山、小水）
通 信 郵 送 費	90,000	85,337	メーリングリスト年会費、角 2 封筒（100 枚）、切手各種（4,861 円）、はがき（100 枚）、郵送料【48 号】、角 2 封筒（100 枚）、郵送料【49 号】、懇親旅行 CD 送付（210 円）円切手各種（2100 円）角 2 封筒（ロゴ入り：600 枚）、はがき（80 枚）、郵送料【50 号】
事務用品費	40,000	29,313	コピー用紙代（48 号）、コピー用紙代（49 号）、とじ太くんカバー（120 枚）、コピー用紙代（50 号）、ファイル（6 冊）
新 規 事 業 費	10,000	0	
雑 費	20,000	0	
(払込手数等)	10,000	3,880	会費振込手数料、 「広島・宮島への旅」の旅行代金の振込手数料
小 計	1,510,000	1,013,923	
預かり金支出	200,000	160,000	前年度受取

(次年度以分)		224,000	今年度受取
次年度繰越	320,262	696,503	
合 計	2,080,262	2,094,426	

(C) 【会計監査報告】

会計監査報告書を基に前田幸一会計監査より報告した。

会計監査報告書

平成30年4月2日

会計監査 前田幸一

FAR会の平成29年度会計監査について下記のように報告いたします。

記

私前田幸一は平成29年度収支計算書・会費納入台帳・預金通帳・振替貯金・現金出納帳・及び領収書などの提出を受け、詳細に精査いたしました。

収入項目及び金額・支出項目及び金額など記載に間違いなく管理されていることを報告いたします。

以上

以上、報告通り【平成29年度事業報告】、【収支決算書報告】、【会計監査報告】を承認した。

6. 2018年度事業計画(案)・収支予算(案)の提案

(A) 【事業計画(案)】

1) 学術大会(春・秋)に合わせて親睦・交流事業の推進(詳細は議題8で審議)

(1) 第74回総会学術大会時に「2018 FAR会懇親の夕べ」を開催する。

(2) 第46回秋季学術大会時に「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」を開催する。

2) 情報誌の発行

例年通り3回発行する。

3) 会員相互に共通する情報交換をJSRTと連動したホームページならびにメーリングリストを用いての活動を推進すると共に、新会員の加入に努める。

4) 世話人会議・運営委員会の開催

(1) 世話人会議を2018年4月(横浜)、2018年10月(仙台)で開催する。

(2) 運営委員会と総務委員会との合同委員会を2019年1月(京都)で開催する。

(B) 【収支予算(案)】

FAR会 2018年度収支予算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

収 入 の 部

科 目	前年度予算額	予 算 額	備 考
前年度繰越	634,262	696,503	
年度会費	176,000	188,000	94名とする

新 入 会 分	10,000	10,000	
寄 付 金	30,000	50,000	
広 告 料	0	0	
懇 親 会 費	1,020,000	890,000	懇親の夕べ(参加者：会員(準)；29名)、懇親旅行参加費(20名)とする 懇親の夕べ 290,000 円＋懇親旅行 600,000 円
雑収入(利等)	10,000	10,000	
預かり金収入	200,000	224,000	
合 計	2,080,262	2068,503	

支 出 の 部

科 目	前年度予算額	予 算 額	備 考
情報誌作成費	40,000	40,000	51号、52号、53号
懇 親 会 経 費	1,140,000	880,000	懇親の夕べ(参加者：会員(準)：28名)、懇親旅行(参加者：20名) 懇親の夕べ 290,000 円＋懇親旅行 600,000 円
会 議 費	50,000	50,000	前年度並み
運 営 旅 費	110,000	65,770	前年度並み
通 信 郵 送 費	90,000	70,000	前年度並み
事 務 用 品 費	40,000	20,000	前年度並み
新 規 事 業 費	10,000	10,000	
雑 費	20,000	10,000	
(払込手数料等)	10,000	10,000	
預かり金支出	200,000	224,000	
次 年 度 繰 越	320,262	644,503	
合 計	2,080,262	2,068,503	

以上、提案通り【事業計画(案)】・【収支予算(案)】を承認した。

7. 情報誌関係

下記の通り3回発行する。

第51号(2018年5月15日発行) 巻頭言執筆予定者：川上壽昭

第52号(2018年9月15日発行) 巻頭言執筆予定者：山 哲男

第53号(2019年1月15日発行) 巻頭言執筆予定者：速水昭雄

8. 懇親活動

1) 第74回総会学術大会時に「2018 FAR会懇親の夕べ」を開催する。

・代表幹事：江島光弘

・日時：4月14日(土) ・場所：BEER NEXT ダイニングレストラン 横浜赤レンガ倉庫店

・会費：10,000円 ・申込方法：情報誌第50号同封葉書(申込締切：3月15日)

・参加者：29名(会員：21名、会員家族：1名、JSRT事務局員：3名、JSRT役員：4名)

2) 第46回秋季学術大会時に「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」を開催する。

・代表幹事：梁川 功

- ・日時：2018年10月6日(土)、7日(日)(一泊二日)
- ・日程：1日目 仙台国際センター → 閑上日和山 → 震災遺構 荒浜小学校 → 塩釜港 → 松島遊覧→松島港→ 瑞巖寺・五大堂 → 松島センチュリーホテル (宿泊)
- 2日目 ホテル出発 → 石巻 まなびの案内 → シーバルビア女川 → 仙台駅(解散)
- ・宿泊地：松島センチュリーホテル (懇親会場) 宮城県宮城郡松島町松島字仙随 8

TEL 022 354-4111

- ・参加費：30,000 円
- ・申込方法：情報誌第 51 号同封葉書(申込締切：8 月 10 日)

- 3) 第 75 回総会学術大会時の「2019 FAR 会懇親の夕べ」の企画
(第 75 回総会学術大会 会期：2019 年 4 月 11 日 (木) ～4 月 14 日 (日)、
パシフィコ横浜会議センター、大会長：石田隆行)

- ・代表幹事：橋本廣信
- ・日時：2019 年 4 月 13 日(土) 18：30～
- ・場所等詳細企画案は 第 2 回世話人会議に提案し企画案を決定する事とした。

- 4) 第 47 回秋季学術大会時の「2019 秋の FAR 会」代表幹事の選定
(第 47 回秋季学術大会 会期：2019 年 10 月 17 日 (木) ～19 日 (土)、
グランキューブ大阪、大会長：福西康信)

代表幹事に小水 満 世話人を選任した。

- 5) 「2017 広島・宮島を巡る旅」会計報告
会計報告書を基に報告し、報告通り承認した。

9. その他

1) 会議関係

(1) 世話人会議

① 第 1 回世話人会議

日時：2018 年 4 月 14 日(土) 14:00～15:30、 場所：パシフィコ横浜会議センター

② 第 2 回世話人会議

日時：2018 年 10 月 6 日(土) 11:00～12:00 (予定)、 場所：仙台国際センター (予定)

(2) 運営委員会と総務委員会との合同委員会

日時：2019 年 1 月 (予定)、 場所：JSRT 事務局 (予定)

2) その他

新入会者を増やすための障害となっている一因として、現行規約(第 4 条)の表現があるのではとの意見があり、今後この規約の見直しも含め、新入会者増加に努める事とした。

《JSRT 情報》

『第 46 回秋季学術大会』大会テーマ：震災から 7 年 復興と放射線技術学

大会長：千田浩一 (東北大学)

会 期：2018 年 10 月 4 日 (木) ～6 日 (土)

会 場：仙台国際センター

『第 75 回総会学術大会』大会テーマ：革新的な放射線医学を 一患者に寄り添って一

大会長：石田隆行 (大阪大学大学院)

会 期：2019 年 4 月 11 日 (木) ～14 日 (日)

会 場：パシフィコ横浜会議センター他

《寄稿》

私のふらり旅「春」

川越市 森 克彦



麗らかな春の陽射しに誘われて、思いつくまま、足の向くまま筆者は、自宅を出て市街地を散策しながら、何となく東南の方向へと歩を進め3km程行くと川越街道(国道254)と旧川越街道の分岐地点に至ると「烏頭坂(うとうざか)」と呼ばれる古から人々が行き交う坂がありその高台に岸町熊野神社の境内があります。見上げると今を盛りと満開の桜(平成29年4月7日)を見ることができました。(写真-1) もともとこの近隣に祀られていた熊野神社は、明治19年に現在地に有った稲荷神社に合祀されました。

烏頭坂より急峻な石段(写真-2)を登り2つ程の鳥居を潜ると熊野神社の拝殿へと進みます。(写真-3) 境内にある小山には、幾つもの石碑があり、中央に聳えるのは、御嶽・八海山・三笠神社等で、これは御嶽塚と呼ばれています。(写真-4)



(写真-1)



(写真-2)



(写真-3)



(写真-4)

岸町・熊野神社入口の階段の街道が、旧川越街道で、岸町から新宿町二丁目・富士見町へ上る坂で、往時は杉並木があり、鬱蒼と茂っていたようです。新河岸川舟運が盛んな頃は、荷揚げされた荷物を市内の間屋街に運ぶときに必ず通らなければならず、難所として知られていました。川越の地名として古

くからあり、文明 18 年（1488 年）頃、この地方を遊歴した道興准後の「廻国雑記」に「うとふ坂こえて
苦しき行末をやすかたとなく鳥の音もかな」という歌があります。（写真-5）・（写真-6）

筆者も何度となく、この鳥頭坂を行き来しましたが、古の人々の大変さを身に感ぜずにはおられませ
んでした。今日は、ふらり旅なので新河岸方向へと下って帰宅しましたが、改めて川越の地は、起伏に
とんだ地形であり江戸初期の北のまもりの要衝の地であったことを改めて深く思いおこす、ふらり旅で
した。



（写真-5）



（写真-6）

この寄稿文は、2017 年（平成 29 年）4 月に投稿されたものを本号に掲載しました。

~~~~~

## 《続 編》 「梅垣先生に集う会」の思い出（後編）

松本市 平野浩志



FAR 会「情報誌第 50 号」に引続き、懐かしい方々との思い出を掲載させていただきます。

前編にも載せましたが、梅垣先生に集う会は、当時の JSRT 東京部会の方々が中心  
となって発足した会で、梅垣洋一郎先生が夏場、蓼科の別荘に避暑に行くタイミ  
ングで、蓼科、甲府、松本に集まって梅垣先生の貴重なお話を聞くとともに、自  
分たちの人生観、現況などをつまみに、懇親を温める楽しい会でした。後編は、  
第 14 回から梅垣先生が 2010 年（平成 22 年）1 月にご逝去された年の第 22 回の『梅  
垣先生を偲ぶ会』までを記載いたします。

### 第 14 回

2002 年（平成 14 年）9 月 1 日“諏訪湖ハイツ”（下諏訪）先生ご夫妻と 16 名参加

前日 8 月 31 日“美ヶ原高原”散策 13 名参加

8 月 31 日 12：00 に、JR 塩尻駅で電車組、車組が合流、本山宿の丸泉のそば屋に向かった。本山宿は  
中山道の宿場で、そば切りの発祥の地と言われている。梅漬（梅としその葉の砂糖漬け）に感激、そば  
は極細で絶品、近くには五一ワインのワイナリーがある。お腹が満足したところで、松本市の隠れ湯と  
して知られる扉温泉『檜の湯』で入浴を済ませ、美ヶ原高原王ヶ頭ホテルに向かった。美ヶ原高原は、  
松本市の東側に位置する標高 2038m の高原であり、富士山、八ヶ岳、北アルプス、南アルプス、中央ア  
ルプス、浅間山が位置する、深田久弥著の日本百名山が 41 眺望できる。夕方からガスに覆われてしまっ  
たが、ガスの闇が一瞬消え、満点の星空を垣間見る事ができ、キャンプファイヤーで楽しんだ。翌朝は、  
雲海に浮かぶ北アルプスを眺望し、高山植物の花畑、美ヶ原高原美術館の散策、ビーナスラインで霧ヶ



峰高原、車山を經由して、会場の諏訪湖ハイツに到着した。

四宮先生の乾杯のご発声後、各人から現況報告の 3 分間スピーチがあり夕食後、全員庭に出て対岸から打ち上がる、『諏訪湖新作花火大会』の花火を鑑賞した。翌日は、諏訪大社、諏訪湖間欠泉、原田泰治美術館、駒ケ根の養命酒工場の見学をして、上諏訪で解散となった。



丸泉のそば屋 (<https://awaremi-tai.com/soba0183.html>)

扉温泉の檜の湯 (<http://www.i-turn.jp/matsumoto-tobira-hinokinoyu.html>)

美ヶ原高原 (<http://www.mcci.or.jp/utukushi/>)

美ヶ原高原王ヶ頭ホテル (<https://www.ougatou.jp/>)

諏訪湖新作花火大会 (<http://www.suwako-hanabi.com/shinsaku/>)

諏訪大社（下社秋宮）(<http://suwataisha.or.jp/akimiya.html>)

原田泰治美術館 (<http://www.taizi-artmuseum.jp/exhibition/>)







## 第 15 回

2003 年（平成 15 年）8 月 29 日 “JA アスティかたおか”（塩尻） 先生ご夫妻と 18 名参加

8 月 29 日 11:00 JR 塩尻駅にて電車組、自家用車組が合流、塩尻の洗馬にある『美須々酒造』という私の高校同級生の蔵元で大吟醸、純米吟醸、生酒など特に蔵元でしか味わえない絶品の日本酒を味わい、昨年も訪れた本山宿の丸泉のそば屋で信州そばを堪能した。

高ボッチ高原（標高 1665m）の散策、東側は諏訪湖を眼下に望め、西側からは北アルプスが一望できるスポットで記念撮影、夜は JA アスティかたおかの鯉の料理と美須々酒造の“緑香村”を酌み交わし懇親を深めた。アスティかたおかは、第 10 回の節目に利用した思い出の宿での再会であった。翌日は、車で木曽路を下って、上松にある昔話で有名な浦島太郎が竜宮城から帰ってきて目覚めたと言われている、寝覚めの床に足を伸ばし、塩尻まで戻って解散した。

美須々酒造 (<http://www.appale.ne.jp/~misuzu/index.html>)

高ボッチ高原 (<http://www.city.shiojiri.lg.jp/kanko/takabocchi.html>)

JA アスティかたおか (<https://www.zukulabo.net/shop/shop.shtml?s=916>)

寝覚めの床 (<http://tumago.jp/around/nezame.html>)





## 第16回

2004年（平成16年）8月28日“レイクビュー白馬”（白馬村）先生ご夫妻と19名参加

8月28日の正午に松本駅にて電車組と自家用車組が合流、安曇野散策、大王わさび農場見学、ワイナリーでワインの試飲、大町市にある大町山岳博物館を見学してから、レイクビュー白馬に向かった。レイクビュー白馬は、中京大学の青木湖セミナーハウスで、北アルプスの山麓にある佐野坂スキー場のゲレンデの中にひっそりとたたずむホテルでした。

夕食は、フレンチのコースでとてもリッチな気分の中で、現況報告が行われ楽しい時間が過ぎて行った。食事の後ロビーにたたずんでいると、流しの歌手がシャンソンを歌っていったのがとても印象的に残っています。

翌日は、1998年の長野オリンピックのジャンプ台を見学し、八方尾根のリフトに乗って八方池山荘までプチトレッキングをした。大町市で信州そばを食べた後、9名の方々は、大町市の高瀬溪谷にある葛温泉の高瀬館に宿泊し、信州の秘湯を堪能していただいた。

信州安曇野スイス村ワイナリー (<http://www.swissmurawinery.com/>)

大王わさび農場 (<https://www.daiowasabi.co.jp/>)

市立大町山岳博物館 (<http://omachi-sanpaku.com/>)



レイクビュー白馬 (<http://www.seminarhouse.biz/hakuba/index.html>)

白馬ジャンプ競技場 (<http://www.hakuba-happo.or.jp/jump/>)

八方尾根 (<http://www.happo-one.jp/trekking>)

大町葛温泉高瀬館 (<http://www.takasekan.com/>)

## 第 17 回

2005 年（平成 17 年）8 月 26 日 河口湖“富士桜荘”（富士吉田）先生ご夫妻と 19 名参加

8 月 26 日夕方 5 時までに集合し、夕食を取りながら近況報告を行った。翌日は、忍野八海の湧き水の透明感に驚き、白糸の滝の雄大さに感動し、朝霧高原でソフトクリームを堪能し、富士山レーダードーム館で富士山レーダーと新田次郎の歴史を学んだ。

忍野八海 (<https://4travel.jp/travelogue/11076944>)

白糸の滝 (<http://shizuoka-hamamatsu-izu.com/shizuoka/fujinomiya-city/sz071/>)

朝霧高原 (<http://www.asagiri-kogen.com/>)

富士山レーダー (<https://ja.wikipedia.org/wiki/>)







## 第 18 回

2006 年（平成 18 年）8 月 26 日 みのわ温泉 “ながた荘”（箕輪町）20 名参加

前日の 8 月 25 日の中央アルプス千畳敷の散策 14 名参加

8 月 25 日岡谷駅に 11 時に集合、岡谷市で有名な“うなぎの水門”で、外はカリット中はプリットした極上のうなぎを食べて元気をつけて、駒ヶ根高原に移動、車を置きバスでしらび平駅、そこから駒ヶ岳ロープウェイで標高 2612m の千畳敷カールに向かいました。

天空の絶景スポットを満喫し、山小屋で祝杯を挙げ、翌朝は雲海とご来光を眺め、宝剣岳に登った。駒ヶ根高原に戻り、マルスウイスキーの信州蒸留所を見学、待ち合わせの箕輪町のながた荘に向かった。梅垣先生ご夫妻はご都合が悪く欠席でしたが、参加者は近況報告などに花を咲かせた。翌日は上諏訪で解散となった。







うなぎ水門 (<http://unagi-daisuki.com/post-5058>)

千畳敷カール (<http://www.kankou-komagane.com/alps/>)

マルスウイスキー信州蒸留所 (<https://www.hombo.co.jp/factory/shinshu.html>)

みのわ温泉ながた荘 (<http://www.e-minowa.jp/>)







## 第19回

2007年日（平成19年）8月25日 春日温泉“もちづき荘”（佐久）先生ご夫妻と24名

8月25日小淵沢の駅に11時集合、富士見町の“おっこと亭”でそば打ちを体験した。地元の方の指導の下、そば粉をこねることから始め、温度、湿度によってこねる水の量を調節し、耳たぶの柔らかさにする。次にこねた団子をのし棒で伸ばしていく、最後は伸ばしたそばを切る作業で、なかなか細く切れないので、きしめん状になっていた。自分の汗の塩味が付いたそばは格別でした。

小海線沿いに野辺山高原、野辺山駅散策、佐久平の酒屋を経由して春日温泉“もちづき荘”に向かった。もちづき荘での夕食時に、梅垣先生から集う会の初回から17回までの、記念映像が映写されました。

翌日は、小諸の懐古園を見学して軽井沢で昼食をとり解散した。

そば処おっこと亭 (<http://www.town.fujimi.lg.jp/kanko/data/pl15.html>)

春日温泉 もちづき荘 (<http://www.shinkou-saku.or.jp/mochizuki/>)

小諸懐古園 (<http://www.kanko.komoro.org/midokoro/kaikoen.html>)





## 第20回

2008年（平成20年）8月30日“マウントビュー蓼科”（蓼科）先生ご夫妻と21名参加

8月30日小淵沢の駅に12時集合、富士見町のおっこと亭でそば打ちを体験した。その後、唐沢鉱泉にて信州の秘湯を楽しみ、マウントビュー蓼科に到着した。マウントビュー蓼科は、青木湖の“レイクビュー白馬”同様で中京大学のセミナーハウスで、茅野駅から唐沢鉱泉に向かって20分ほど登ったリゾート地にある。

皆さん会議室に集まり、梅垣先生から日本癌学会「長興又郎賞」の受賞講演を頂いた。

今回は20回の節目の集う会に当たるので、梅垣先生には感謝状と記念品を用意し、また通算10回以上参加した方には、梅垣先生にお願いして、先生の直筆の色紙を手渡し頂くことにした。講演の中で、オリオン座を眺めるのが一番好きなのだとお話され、頂いた色紙にも書かれていた。その晩は、大いに盛り上がった。

翌日は、茅野にある尖石縄文考古館と尖石を見学して上諏訪で解散した。尖石縄文考古館に収蔵されている、国宝の縄文のビーナスと仮面のビーナスはとても不思議なスタイルに驚きを感じた。まるで宇宙人が存在するかを思わせる埴輪でした。

尖石縄文考古館 (<http://www.city.chino.lg.jp/www/togariishi/index.html>)

マウントビュー蓼科 (<http://www.seminarhouse.biz/tateshina/>)









平野浩志様

平成二〇年八月三〇日

梅垣洋一郎



冬空に輝く昴座と三つ星

天の三つ星と地の三賞

私は冬空に輝く昴座の三つ星を眺めるのが楽しみで、私は高松宮妃・中山恒明さんと長年又郎の三賞を頂戴しました。私にとってこの賞はまさに地元の三つ星です。癌の治療に少しでも貢献できたことは私の人生で最高の幸福でした。

## 感謝状

梅垣 洋一郎 先生  
愛代子 奥様

梅垣先生と奥様には 昭和62年(1987)以来21年間にわたり ご多用のところ遠方までおいて頂き 私たち集う会のメンバーに医学の方向性や人の生きる道について 温かく また懇切にご指導いただきました。

本日 梅垣先生に集う会の第20回開催にあたり私たち一同の気持ちを込めてここに記念品を添え感謝の意を捧げます。

平成20年8月30日 於マウントビュー・薬科  
第20回梅垣先生集う会  
世話人 平野浩志 小川敬寿







## 第 21 回

2009 年（平成 21 年）8 月 30 日 山梨県芦安温泉 21 名参加

甲府駅に集合し、サントリーの白州工場を見学して、身延山久遠寺に参拝、菩提梯 287 段を往復し、身延ロープウェイにて奥之院思親閣を参拝した。その後、芦安温泉で懇親を深めた。残念ながら梅垣先生ご夫妻は 20 回を節目にしたいとのことで参加されなかった。

サントリー白州蒸留所 (<https://www.suntory.co.jp/factory/hakushu/>)

身延山久遠寺 (<http://www.kuonji.jp/index.htm>)

芦安温泉岩園館 (<https://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/8971/8971.html>)

2010 年 1 月 2 日 梅垣先生ご逝去（87 歳）

## 【梅垣先生を偲ぶ会】

2010 年（平成 22 年）10 月 22 日 熱海温泉旅の宿「かみむら」

熱海駅集合、私と山梨の佐野さん、神奈川の鈴木さんは車で熱海に出かけた。熱海の蕎麦処多賀で昼食を取り、熱海の遊覧船に乗りカモメに餌を与えた。梅垣先生の奥様をお呼びして、お慰めの会にしたかったのですが、お越しいただけませんでした。これからどうするのか、これで終焉とするのかを話し合った。結局、梅垣先生は亡くなってしまったが、お互いの顔を見る事ができるこの会の存続は必要だという意見が多かった。残念ながら、この会を最後に皆さんで集まることは無くなった。

蕎麦処多賀 (<https://www.tagasoba.jp/>)

熱海温泉旅の宿「かみむら」(<http://atami-kamimura.com/>)

最後に

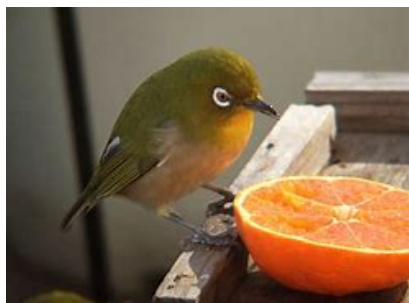
FAR 会の情報誌をお借りして、『梅垣先生に集う会』の記録を掲載させていただきましたこと、誠にありがとうございました。

思い出せる範囲と、手元にあった写真とで作成しましたので、物足りないところもありますが、許していただければ幸いです。

~~~~~

《編集の小窓》

昨年の11月中旬にベランダで珍しくメジロを見かけたのでミカンを置きました。最初はミカンのつぶみ方から1日に2回程度のようにでしたが次第に頻繁に来るようになりました。そこにヒヨドリが来て、ウグイスも来るようになりました。エサの種類を増やすなどして、独特のネクタイのような縦の縞を持つシジュウカラも招待しました。



メジロ



ウグイス



シジュウカラ

それからしばらくの間、鳥たちにいろいろな姿を見せてもらいました。

夕方に餌を食べに来てじっと黄昏れているメジロや、ベランダの植木鉢のふちでヒマワリの種を両足で抑えてつぶむシジュウカラの姿。メジロは日本では2番目に小さい小鳥と聞きましたが、自分より体が大きくてもウグイスには強気です。羽を閉じた状態から少し持ち上げて小刻みに震わせて威嚇をします。シジュウカラとでも鉢合わせしても動じません。どうもシジュウカラが遠慮しているようです。ただヒヨドリにはかないません。

そんな鳥たちも梅の花が開き、桜の花が咲くころになると、山に生活の拠点を戻すようで次第に来なくなり、4月になるとシジュウカラが時々姿を見せるくらいになりました。

また冬から春にかけてそれぞれが姿を見せてくれるのを楽しみにしています。

江島光弘、記

FAR 情報誌 No. 51 (非売品)

発行日 2018年5月15日

発行者 川上壽昭

編集委員会 森 克彦 (委員長)

石井 勉 江島光弘

橋本廣信

山田和美 (顧問)

森 連絡先

Tel&Fax. 049-225-2619

Email: mokamokawh@gmail.com